

# 幾何の定理の別証明

5年B組 林 建吾

5年C組 古宮 昌典

指導教員 川口 慎二

## 1. 要約

サイエンス研究会数学班5年生は定理の別証明について研究している。今回は、平面幾何における定理の別証明を考え、幾何学の様々なアプローチについて学んだ。

キーワード 証明、計算による解法、初等幾何的解法

## 2. 研究の背景と目的

I 期中間考査に出題された幾何の証明問題について、答え合わせをしていたところ、さまざまな解法があることに気がついた。そこで、平面幾何の定理の証明方法について、すでに知られているものも含め、まとめることにした。

## 3. 研究内容

### 3-1. I 期中間考査最終問題の証明

次が、5年「代数・幾何」I 期中間考査で出題された問題である。

#### 問題

$\triangle ABC$  の辺  $BC$  を  $1:2$  に内分する点を  $D$  とする。このとき、

$$2AB^2 + AC^2 = 3(AD^2 + 2BD^2)$$

が成り立つことを示せ。

#### 3-1-1 三平方の定理を用いた解法

三平方の定理のみを用いて証明することもできる。

点  $A$  から辺  $BC$  へ降ろした垂線の足を  $H$

とする。 $H$  の位置によって以下の4つの場合が考えられるが、ここでは(i)の証明のみ与える。(ii), (iii), (iv)についても同様に示せる。

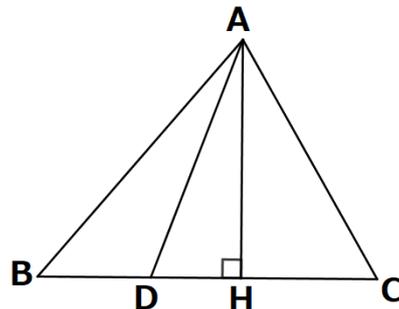
(i) 線分  $CD$  上に点  $H$  がある場合

(ii) 線分  $BD$  上に点  $H$  がある場合

(iii) 半直線  $DC$  上であって  $\triangle ABC$  の外部に点  $H$  がある場合

(iv) 半直線  $DB$  上であって  $\triangle ABC$  の外部に点  $H$  がある場合

<(i)の証明>



$\triangle ABH$  において、三平方の定理より

$$AB^2 = AH^2 + BH^2$$

$$BH = BD + DH$$

であるから、

$$AB^2 = AH^2 + (BD + DH)^2$$

$$= AH^2 + BD^2 + 2BD \cdot DH + DH^2 \quad \dots \textcircled{1}$$

また、 $\triangle ACH$  において、三平方の定理より

$$AC^2 = AH^2 + CH^2$$

$$= AH^2 + (CD - DH)^2$$

$$= AH^2 + CD^2 - 2CD \cdot DH + DH^2,$$

$CD = 2BD$  より、

$$AC^2 = AH^2 + 4BD^2 - 4BD \cdot DH + DH^2$$

$\dots \textcircled{2}$

$\textcircled{1} \times 2 + \textcircled{2}$  より、

$$2AB^2 + AC^2$$

$$= 2(AH^2 + BD^2 + 2BD \cdot DH + DH^2)$$

$$+ AH^2 + 4BD^2 - 4BD \cdot DH + DH^2$$

$$= 6BD^2 + 3AH^2 + 3DH^2$$

$\triangle ADH$  において、三平方の定理から

$$AH^2 + DH^2 = AD^2 \text{ であるので、}$$

$$2AB^2 + AC^2 = 6BD^2 + 3AH^2 + 3DH^2$$

$$= 3(2BD^2 + AD^2)$$

を得る。 (Q. E. D.)

### 3-1-2 座標を用いた解法

座標を用いる場合、原点をおく場所によって以下の 3 つの証明方法が考えられる。

(I)  $BC$  が  $x$  軸と一致し、 $D$  を原点におく。

(II)  $BC$  が  $x$  軸と一致し、 $B$  または  $C$  を原点におく。

(III) 3 点すべてを文字でおく。

ここでは、(III) の証明のみを挙げる。

<証明>

$A(a_1, a_2)$ ,  $B(b_1, b_2)$ ,  $C(c_1, c_2)$  とおくと、 $D\left(\frac{2b_1 + c_1}{3}, \frac{2b_2 + c_2}{3}\right)$  と表せる。

$$\text{(左辺)} = 2AB^2 + AC^2$$

$$= 2\left\{(a_1 - b_1)^2 + (a_2 - b_2)^2\right\} + \left\{(a_1 - c_1)^2 + (a_2 - c_2)^2\right\}$$

$$= 2(a_1^2 - 2a_1b_1 + b_1^2 + a_2^2 - 2a_2b_2 + b_2^2) + a_1^2 - 2a_1c_1 + c_1^2 + a_2^2 - 2a_2c_2 + c_2^2$$

$$= 2a_1^2 - 4a_1b_1 + 2b_1^2 + 2a_2^2 - 4a_2b_2 + 2b_2^2 + a_1^2 - 2a_1c_1 + c_1^2 + a_2^2 - 2a_2c_2 + c_2^2$$

$$= 3a_1^2 + 2b_1^2 + c_1^2 - 4a_1b_1 - 2c_1a_1 + 3a_2^2 + 2b_2^2 + c_2^2 - 4a_2b_2 - 2c_2a_2$$

$$\text{(右辺)} = 3(AD^2 + 2BD^2)$$

$$= 3\left[\left\{\left(a_1 - \frac{2b_1 + c_1}{3}\right)^2 + \left(a_2 - \frac{2b_2 + c_2}{3}\right)^2\right\} + 2\left\{\left(b_1 - \frac{2b_1 + c_1}{3}\right)^2 + \left(b_2 - \frac{2b_2 + c_2}{3}\right)^2\right\}\right]$$

$$\begin{aligned}
&= 3 \cdot \frac{1}{9} \left[ \left\{ (3a_1 - 2b_1 - c_1)^2 + (3a_2 - 2b_2 - c_2)^2 \right\} + 2 \left\{ (b_1 - c_1)^2 + (b_2 - c_2)^2 \right\} \right] \\
&= \frac{1}{3} (9a_1^2 + 6b_1^2 + 3c_1^2 - 12a_1b_1 - 6c_1a_1 + 9a_2^2 + 6b_2^2 + 3c_2^2 - 12a_2b_2 - 6c_2a_2) \\
&= 3a_1^2 + 2b_1^2 + c_1^2 - 4a_1b_1 - 2c_1a_1 + 3a_2^2 + 2b_2^2 + c_2^2 - 4a_2b_2 - 2c_2a_2
\end{aligned}$$

ゆえに、(左辺)=(右辺)が成り立つ。(Q. E. D.)

### 3-1-3 余弦定理を用いた解法

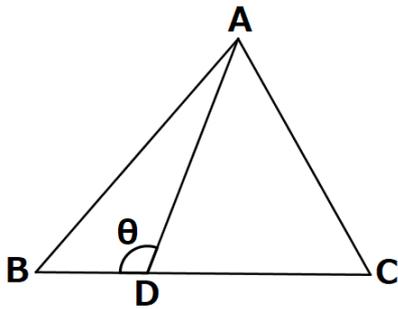
余弦定理を用いると以下のように証明できる。

$$2AB^2 + AC^2 = 3(AD^2 + 2BD^2)$$

ゆえに、(左辺)=(右辺)が成り立つ。

(Q. E. D.)

<証明>



$\angle ADB = \theta$  とおくと、 $\triangle ADB$ ,  $\triangle ADC$  において、それぞれ余弦定理から、

$$AB^2 = AD^2 + BD^2 - 2AD \cdot BD \cos \theta \quad \dots \textcircled{1}$$

$$AC^2 = AD^2 + CD^2 - 2AD \times CD \cos(180^\circ - \theta)$$

$BD : CD = 1 : 2$  より  $CD = 2BD$  であるので、

$$AC^2 = AD^2 + 4BD^2 + 4AD \cdot BD \cos \theta \quad \dots \textcircled{2}$$

ここで、 $\textcircled{1} \times 2 + \textcircled{2}$  より

$$\begin{aligned}
2AB^2 + AC^2 &= 2AD^2 + 2BD^2 - 4AD \cdot BD \cos \theta \\
&\quad + AD^2 + 4BD^2 + 4AD \cdot BD \cos \theta
\end{aligned}$$

整理すると、

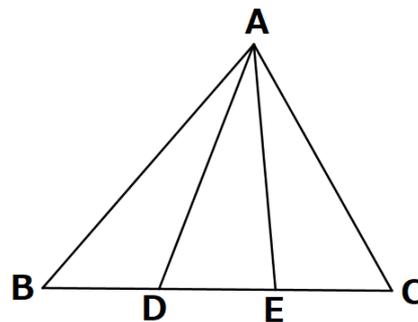
### 3-1-4 中線定理を用いた解法

補助線の引き方によって 2 通りの証明方法がある。

(I) 図形の内側に補助線を引く

<証明>

下図のように、線分  $CD$  の中点  $E$  をとる。



$BD : DC = 1 : 2$  であるから、 $BD = DE = EC$  が成り立つ。よって、点  $D$  は線分  $BE$  の中点であるから、 $\triangle ABE$  において中線定理より、

$$AB^2 + AE^2 = 2BD^2 + 2AD^2 \quad \dots \textcircled{1}$$

また、点  $E$  は線分  $CD$  の中点であるから、 $\triangle ACD$  において中線定理より、

$$AD^2 + AC^2 = 2DE^2 + 2AE^2 \quad \dots \textcircled{2}$$

①×2より

$$2AB^2 + 2AE^2 = 4BD^2 + 4AD^2 \dots ③$$

また、②において  $BD = DE$  であるから、

$$AD^2 + AC^2 = 2BD^2 + 2AE^2,$$

$$2AE^2 = AD^2 + AC^2 - 2BD^2 \dots ④$$

④を③に代入して、

$$\begin{aligned} 2AB^2 + (AD^2 + AC^2 - 2BD^2) \\ = 4BD^2 + 4AD^2. \end{aligned}$$

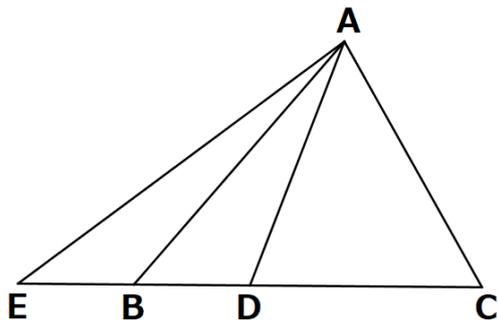
整理すると求める式が得られる。

(Q. E. D.)

(II) 図形の外側に補助線を引く

<証明>

下図のように、線分  $CD$  を  $1:2$  に外分する点  $E$  をとる。



$BD:DC = 1:2$  であるから、 $EB = BD$ ,  $ED = DC$  が成り立つ。よって、点  $D$  は線分  $EC$  の中点であるから、 $\triangle AEC$  において中線定理より、

$$AE^2 + AC^2 = 2ED^2 + 2AD^2 \dots ①$$

また、点  $B$  は線分  $ED$  の中点であるから、 $\triangle AED$  において中線定理より、

$$AE^2 + AD^2 = 2EB^2 + 2AB^2 \dots ②$$

①において、 $ED = 2BD$  より、

$$AE^2 + AC^2 = 8BD^2 + 2AD^2 \dots ③$$

また、②において  $EB = BD$  であるから、

$$AE^2 + AD^2 = 2BD^2 + 2AB^2,$$

$$AE^2 = 2BD^2 + 2AB^2 - AD^2 \dots ④$$

④を③に代入して、

$$\begin{aligned} (2BD^2 + 2AB^2 - AD^2) + AC^2 \\ = 8BD^2 + 2AD^2. \end{aligned}$$

整理すると求める式

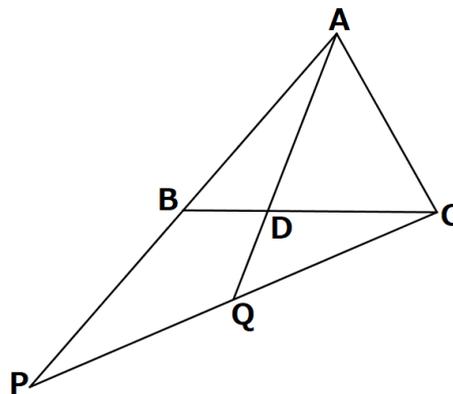
$$\begin{aligned} 2AB^2 + AC^2 = 6BD^2 + 3AD^2 \\ = 3(2BD^2 + AD^2) \end{aligned}$$

が得られる。(Q. E. D.)

### 3-1-5 三角形の重心を用いた解法

$D$  が辺  $BC$  を  $1:2$  に内分していることから、重心の性質を用いた証明ができる。

<証明>



線分  $AB$  を  $2:1$  に外分する点  $P$  をとり、線分  $PC$  の中点を  $Q$  とする。いま、点  $D$  は線分  $BC$  を  $1:2$  に内分しているの、点  $D$  は  $\triangle APC$  の重心である。ゆえに、3点  $A, D, Q$  は同一直線上にある。

$\triangle APC$  において、( $CP$  を底辺とみて)中線定理より、

$$AP^2 + AC^2 = 2PQ^2 + 2AQ^2 \dots ①$$

$$AD:DQ = 2:1 \text{ より、} AQ = \frac{3}{2}AD$$

であり、 $AP = 2AB$  なので①に代入すると、

$$4AB^2 + AC^2 = 2PQ^2 + \frac{9}{2}AD^2.$$

両辺を2倍して、

$$8AB^2 + 2AC^2 = 4PQ^2 + 9AD^2 \quad \dots \textcircled{2}$$

を得る。

いま、 $\triangle CPA$ において点Bは辺APの中点であるから、(APを底辺とみて)中線定理より、

$$CA^2 + CP^2 = 2AB^2 + 2CB^2 \quad \dots \textcircled{3}$$

が成り立つ。

いま、 $CA = 2PQ$ 、 $BC = 3BD$ であるから、 $\textcircled{3}$ に代入して、

$$\begin{aligned} AC^2 + 4PQ^2 &= 2AB^2 + 18BD^2, \\ 4PQ^2 &= 2AB^2 + 18BD^2 - AC^2. \quad \dots \textcircled{4} \end{aligned}$$

$\textcircled{2}$ に $\textcircled{4}$ を代入して、

$$\begin{aligned} 8AB^2 + 2AC^2 \\ = (2AB^2 + 18BD^2 - AC^2) + 9AD^2 \end{aligned}$$

整理すると

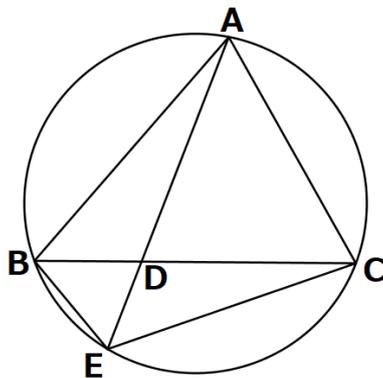
$$6AB^2 + 3AC^2 = 18BD^2 + 9AD^2$$

両辺を3で割って整理すると、求める式が得られる。(Q. E. D.)

### 3-1-6 外接円を用いた解法

$\triangle ABC$ の外接円を考えることで以下のような証明ができる。

<証明>



$\triangle ABC$ の外接円と、直線ADとの(Aとは異なる)交点をEとする。

方べきの定理より、

$$BD \times DC = AD \times DE.$$

$DC = 2BD$ より、

$$2BD^2 = AD \times DE.$$

ゆえに

$$DE = \frac{2BD^2}{AD} \quad \dots \textcircled{1}$$

$\triangle ABE$ と $\triangle ACE$ において、

$BD:DC = 1:2$ なので、 $\triangle ABE$ と $\triangle ACE$ の面積比は1:2となる。

一方、

$$\triangle ABE = \frac{1}{2} \times AB \times BE \times \sin \angle ABE$$

$$\triangle ACE = \frac{1}{2} \times AC \times CE \times \sin \angle ACE$$

$$= \frac{1}{2} \times AC \times CE \times \sin(180^\circ - \angle ABE)$$

$$= \frac{1}{2} \times AC \times CE \times \sin \angle ABE$$

とかけるので、 $\triangle ABE$ と $\triangle ACE$ の面積比は $(AB \times BE) : (AC \times CE)$ となる。

ゆえに、

$$(AB \times BE) : (AC \times CE) = 1 : 2$$

が成り立つので、

$$2AB \times BE = AC \times CE$$

よって、

$$BE : CE = AC : 2AB$$

が成り立つ。よって正の実数kを用いて、

$$BE = kAC, \quad CE = 2kAB \quad \dots \textcircled{2}$$

とかける。

先ほどと同様にして、

$$(AB \times AC) : (BE \times EC) = AD : DE$$

$$AB \times AC \times DE = AD \times BE \times EC$$

$\textcircled{1}$ 、 $\textcircled{2}$ を代入して、

$$AB \times AC \times \frac{2BD^2}{AD} = AD \times kAC \times 2kAB$$

これを  $k$  について解くと、

$$k = \frac{BD}{AD}$$

②より、

$$BE = \frac{AC \times BD}{AD}, \quad CE = \frac{2AB \times BD}{AD} \quad \dots \textcircled{3}$$

を得る。

トレミーの定理より、

$$\begin{aligned} AB \times CE + AC \times BE &= AE \times BC \\ &= (AD + DE) \times BC \end{aligned}$$

①, ③を代入して、

$$\begin{aligned} AB \times \frac{2AB \times BD}{AD} + AC \times \frac{AC \times BD}{AD} \\ = \left( AD + \frac{2BD^2}{AD} \right) \times BC \end{aligned}$$

$BC = 3BD$  より、

$$\begin{aligned} \frac{2AB^2 \times BD}{AD} + \frac{2AC^2 \times BD}{AD} \\ = \left( \frac{AD^2 + 2BD^2}{AD} \right) \times 3BD \end{aligned}$$

両辺に  $\frac{AD}{BD}$  をかけて整理すると、

$$2AB^2 + AC^2 = 3(AD^2 + 2BD^2)$$

となり、示された。(Q. E. D.)

### 3-1-7 ベクトルを用いた解法

ベクトルを用いると、比較的簡潔に証明することができる。

<証明>

$$\overrightarrow{AB} = \vec{b}, \overrightarrow{AC} = \vec{c} \text{ とおくと、}$$

$$\overrightarrow{AD} = \frac{2\vec{b} + \vec{c}}{3},$$

$$\overrightarrow{BD} = \overrightarrow{AD} - \overrightarrow{AB} = \frac{2\vec{b} + \vec{c}}{3} - \vec{b} = \frac{-\vec{b} + \vec{c}}{3}$$

と表せる。

$$\text{(左辺)} = 2|\overrightarrow{AB}|^2 + |\overrightarrow{AC}|^2 = 2|\vec{b}|^2 + |\vec{c}|^2$$

$$\text{(右辺)} = 3\left(|\overrightarrow{AD}|^2 + 2|\overrightarrow{BD}|^2\right)$$

$$= 3\left(\left|\frac{2\vec{b} + \vec{c}}{3}\right|^2 + 2\left|\frac{-\vec{b} + \vec{c}}{3}\right|^2\right)$$

$$= 3 \cdot \frac{1}{9} \left\{ 4|\vec{b}|^2 + 4\vec{b} \cdot \vec{c} + |\vec{c}|^2 + 2\left(|\vec{b}|^2 - 2\vec{b} \cdot \vec{c} + |\vec{c}|^2\right) \right\}$$

$$= \frac{1}{3} \left( 6|\vec{b}|^2 + 3|\vec{c}|^2 \right) = 2|\vec{b}|^2 + |\vec{c}|^2$$

ゆえに、(左辺)=(右辺)が成り立つ。

(Q. E. D.)

### 3-2. スチュワートの定理の証明

3-1節で考えた問題の一般化であるスチュワートの定理の証明方法について考えた。

#### スチュワートの定理

$\triangle ABC$  において、辺  $BC$  を  $m:n$  に内分する点を  $D$  とするとき、以下が成り立つ。

$$nAB^2 + mAC^2 = (m+n)(BD \cdot DC + AD^2)$$

3-1節で述べた証明方法のうち、「中線定理を用いた解法」と「重心の性質を用いた解法」以外の解法はすべてスチュワートの定理の証明にもそのまま適用できる。中線定理を用いた解法については、同様の証

明によって  $m$  と  $n$  がともに有理数である場合は解決できる。ここで、求める式を  $AD$  の長さを求める関数とみると、明らかにこの関数は連続であるから、 $m$  または  $n$  が無理数である場合もこの等式が成り立つことがわかる。

### 3-3. オイラーの定理の証明

平面幾何におけるオイラーの定理について、初等幾何での別証明を考えた。

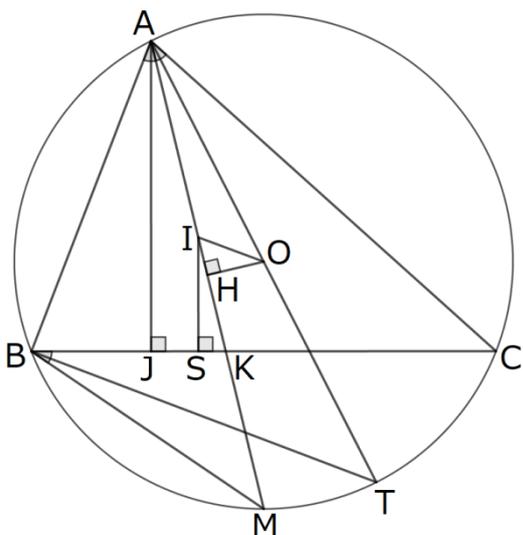
#### オイラーの定理

三角形について、外心と内心の距離を  $d$ 、外接円の半径を  $R$ 、内接円の半径を  $r$  とするとき、以下が成り立つ。

$$d^2 = R^2 - 2Rr$$

すでに知られている初等幾何的な証明については参考文献[1]を参照されたい。また、ベクトルを用いた証明もよく知られている。

<証明>



$\triangle ABC$  の外接円を  $\Gamma$  とする。また、上図のように、直線  $AI$  と  $\Gamma$  の交点を  $M$ 、直線  $AO$  と  $\Gamma$  の交点を  $T$ 、点  $O$  から直線  $AM$  へ降ろした垂線の足を  $H$ 、点  $A$  から直線  $BC$  へ降ろした垂線の足を  $J$ 、直線  $AM$  と辺  $BC$  の交点を  $K$ 、点  $I$  から辺  $BC$  へ降ろした垂線の足を  $S$  とする。

まず、 $OH \perp AM$  より、 $AH = HM$  が成り立つ。 $\triangle OIH$ 、 $\triangle OAH$  について、三平方の定理より、

$$\begin{aligned} OI^2 &= OH^2 + IH^2 \\ &= OH^2 + (AH - AI)^2 \quad \dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

$$OH^2 = OA^2 - AH^2 \quad \dots \textcircled{2}$$

$\textcircled{2}$  を  $\textcircled{1}$  へ代入して、

$$\begin{aligned} OI^2 &= OA^2 - AH^2 + (AH - AI)^2 \\ &= R^2 - 2AH \cdot AI + AI^2 \\ &= R^2 - AI(2AH - AI) \\ &= R^2 - AI(MH + HI) \\ &= R^2 - AI \cdot IM \end{aligned}$$

ゆえに、 $AI \cdot IM = 2Rr$  を示せばよい。

線分  $AT$  は  $\Gamma$  の直径なので、

$\angle ABT = 90^\circ$  が成り立つ。また、円周角の定理より、 $\angle ATB = \angle ACB$  が成り立つので、 $\triangle ABT$  と  $\triangle AJC$  は相似である。よって、

$$AB : AJ = AT : AC$$

$$AJ = \frac{AB \cdot AC}{AT} = \frac{AB \cdot AC}{2R}$$

を得る。また、 $AJ \parallel IS$  であるから、 $\triangle AJK$  と  $\triangle ISK$  は相似なので、

$$AK : IK = AJ : IS$$

$$AK : IK = \frac{AB \cdot AC}{2R} : r$$

$$IK \cdot \frac{AB \cdot AC}{2R} = r \cdot AK$$

$$\frac{IK \cdot AB \cdot AC}{AK} = 2Rr \quad \dots \textcircled{3}$$

が成り立つ。また、 $\angle BAM = \angle KAC$ 、 $\angle AMB = \angle ACK$  より、 $\triangle ABM$  と  $\triangle AKC$  は相似なので、

$$AB : AK = BM : KC$$
$$BM = \frac{AB \cdot KC}{AK}$$

ここで、

$$\begin{aligned}\angle IBM &= \angle IBC + \angle CBM \\ &= \angle ABI + \angle CAM \\ &= \angle ABI + \angle BAI \\ &= \angle BIM\end{aligned}$$

より、 $BM = IM$  が成り立つので、

$$IM = \frac{AB \cdot CK}{AK} \dots \textcircled{4}$$

また、線分  $CI$  は  $\angle ACK$  の二等分線であるから、

$$AC : CK = AI : IK$$
$$\frac{AC \cdot IK}{CK} = AI \dots \textcircled{5}$$

ゆえに、 $\textcircled{3}, \textcircled{4}, \textcircled{5}$  より、

$$\begin{aligned}AI \cdot IM &= \frac{AC \cdot IK}{CK} \cdot \frac{AB \cdot CK}{AK} \\ &= \frac{IK \cdot AB \cdot AC}{AK} \\ &= 2Rr\end{aligned}$$

よって、示された。(Q. E. D.)

#### 4. 考察

幾何の定理の証明では、初等幾何的な解法は発想が求められることがしばしばあるが、簡潔に示すことができることが多い。また、計算による解法は発想を必要としないので、証明しやすいが、計算量が膨大となる場合もある。また、計算量は座標の設定などで変わってくる。

#### 4. 今後の課題

今回は幾何の定理について別証明を行ったが、他の分野の定理についても別証明を考えていきたい。また、別証明から新しい定理を導出することも考えていきたい。

#### 5. 参考文献

[1] web サイト「高校数学の美しい物語」  
<https://mathtrain.jp/euler>

#### 6. 謝辞

今回の研究にあたり、ご指導くださいました顧問の川口先生ありがとうございました。